

第3回 横浜市の中学校昼食に関する懇談会議事概要

日時	令和元年 11 月 29 日（金） 10：00～11：30
場所	関内駅前第一ビル 302 会議室（教育委員会事務局会議室）
出席者	鈴木志保子委員、鈴木裕子委員、山岡委員、柴田委員、今平委員、秋好委員、小島委員、越井委員、室伏委員、村井委員、相坂委員、萬谷委員
次第	1 あいさつ 2 第2回懇談会の議事概要について 3 ハマ弁についての対話（サウンディング調査）の結果について 4 横浜市中学校昼食に関するアンケート調査分析結果について 5 その他

要旨

【2 第2回懇談会の議事概要について】

- ・事務局より議事概要について説明
- ・特に意見なし

【3 ハマ弁についての対話（サウンディング調査）の結果について】

- ・資料3-1に基づき事務局から資料説明
（主な発言要旨）
- ・サウンディング調査に参加した事業者のうち、その他1社とはどのような業者かという質問があり、小売りに関連する1社から話を伺った旨を説明。

【4 横浜市の中学校昼食に関するアンケート調査について】

- ・資料4-1に基づき事務局から資料説明

（主な発言要旨）

- ・回収率に関しては、保護者が52%というのは高いと感じた。多くの保護者がこれだけハマ弁の喫食率が低い中で回答してくださったというのは、関心があるということだと思う。逆に、教職員の回答率は低く感じる。
- ・選択制についての問いで、選択制について、大多数が「自由に選択できるのが良い」を希望している中で、「全員で同じものを食べる方が良い」・「ハマ弁だけで良い」を事実上同じものを食べるというくくりで考えると、中学校保護者では合わせて4割超になる。これをどう受け止めるかが一つのポイントになると思う。
- ・自由に選択できるよりも、基本をハマ弁として、アレルギーなど事情がある場合は家庭弁当や業者弁当でも良いという方針の方が望ましいと思っている。小学校が給食なので、中学校に上がるときのハードルがかなり高いと思われるので、最初に、基本はハマ弁でアレルギー対応などの事情がある方は家庭弁当や業者弁当を持ってきてもらうようにアナウンスすると良いのではないかと。
- ・中学校保護者のアンケート結果を見ると、弁当作りを負担に感じている方が8割を超えている。やはり、給食にさせていただき、基本はハマ弁を食べてもらいたい形が良いかと思うが、教職員のアレルギー対応などの負担も考えると、そういう方は個別に昼食を持ってきてもらうのが良いのではないかと。
- ・横浜市の中でも、昼食に関する考え方は地域によって様々ある。ハマ弁が良いという地域もあれば、保護者がお弁当を作りたいという地域もある。
- ・アンケート結果で10%が「ハマ弁だけでよい」と回答しているが、実際の喫食率は上がっていない要因には、子どもの気持ちを尊重しているところと、保護者の方が注文することに抵抗感を感じているところがあるのだと思う。保護者の方がお弁当作りを負担に感じているという事は明確なので、

「みんなが家庭弁当なのに自分の子どもだけハマ弁」という気持ちを軽減することが大事。

- ・ハマ弁に対する先入観・イメージが元々あって、それが、利用が進まない結果に表れているのだと思う。例えば、お弁当を作れないときの代替案としてのハマ弁というイメージがあるので、ハマ弁がお弁当を作れない事象の象徴になってしまっている。そのようなイメージがあると、生徒としても頼みづらいとか、自分だけ食べるのは嫌だという事につながるのだと思う。例えば、コンセプトとして基本ハマ弁で、家庭弁当も業者弁当も選択肢としてあるというスタイルだと、イメージは変わってくると思うが、生徒指導の経緯や供給体制が確保できない中で、ハマ弁の位置付けをどうするかが一番の問題点だと思う。
- ・ハマ弁のイメージをこれから変えていけるかどうか。元々家庭弁当が基本で、ハマ弁はその代替という位置づけでスタートしたが、これからのハマ弁の位置付けをどうするかによって、イメージもそれぞれ違ってくる。デリバリー型給食で基本ハマ弁ということになって、生徒の代表者がまとめてハマ弁を取りに行くような位置付けに変われば、ハマ弁に対する抵抗感は少なくなると思う。しかし、喫食率が上がりすぎると供給できないという課題もあるので、例えば、地域性を考慮して、ハマ弁を基本とする重点校を試行でつくり、その間に業者の供給体制も改善していく事で、徐々に重点校を増やしていくやり方もあるのではないかな。
- ・昼食時間に関する回答は、もっと短いと感じている生徒が多いと思った。多分慣れてしまっているのだろう。学校の時程を考えると、5分でも延長してお弁当を取りに行く時間を確保することが改善策の一つになるのではないかな。
- ・ハマ弁を準備時間の5分間で取りに行くのが大変だという声はある。
- ・受け取りに時間がかかるという事がクローズアップされているが、保護者の改善要望が40%に対して生徒は20%。そこの改善も必要だと思うが、どちらかというところ、味付けを改善していく事が生徒にとっては大事だと思う。
- ・給食と比較しても、ハマ弁はしっかり味付けされていると思う。生徒は市販の弁当などと比較して味が濃い・薄いと評価しているのだと思う。このような懇談会を開催して、横浜市として真剣にハマ弁を推進しようと考えていることを、多くの方は知らないのだと思う。
- ・やはり、お弁当は健康的でバランスが取れていて、そして安全であることが一番だと思うので、ハマ弁の趣旨を聞いて共感した。食育を通じて保護者や地域を盛り上げていければ、ハマ弁の喫食率は更に上がっていくと思う。欠点を言うのではなく、良いところやより良くするための提案など、前向きな意見を交わすことで、横浜の子どもたちに、ハマ弁に誇りを持ってもらいたい。
- ・保護者試食会をもっと開催し、ハマ弁は美味しいというイメージを作っていくのも重要。
- ・しっかりと栄養を取って基本的な生活習慣が整えば、心理的な面でも安定してくると言われているので、子どもたちにしっかりと食事をする時間を確保して、栄養のあるものをしっかり食べてもらう事は、長期的に見れば生徒指導にもいい影響が出てくると思う。
- ・アンケートの改善要望については、保護者の方が心配していることが、アンケート結果の数値と重なっている印象はあるが、実際の保護者の声を聞いていると、ハマ弁そのものに対するマイナスイメージは感じられない。子どもたちが頼みやすい環境を整備してあげるところを担保していければ、保護者も子どもにどんどん勧めたいという意欲につながるのではないかな。
- ・例えば、月1回・2週間に1回・毎週曜日など、学校ごとにハマ弁の日を決めるなど、必ず1か月に1回はハマ弁を食べる日があると良いのではないかな。

【5 その他】

- ・次回の懇談会は日程調整をした上で行うことで了承。(12月27日10時からに決定)